清風高節

H４年 1992年 45才

平成四年の個展の祝賀会でのごあいさつ

荒毛大琳書展 祝賀会 祝辞

斉藤春草

此の度はお目出とうございます。それも夫婦揃って夫々の分野に於ける見事な成果を発表された今回の催し、特に書道の個展としては之までに例を見ない大規模で多様・多彩、古典の臨書から創作まで、見る人の心をゆさぶるような充実した各種・各様の大作から小品、何れも健康で迫力があり、雄大にしてダイナミック、飛躍と活力、筆の流れと墨色の変化、叙情等常人の為し得ない素晴らしい作品を発表された快挙で、只敬服するのみです。

お二人のことは東京の金子鷗亭先生のお祝いのお言葉が十分に言い盡しているので、今更私からご披露しなくても皆様よく理解されたと思います。金子先生のお言葉には含蓄があり、これまでの経歴と今後への期待を十二分に申し述べられておられるので、ご本人も更に覚悟を新たにされたことと思います。

―〈略〉―

次になな子さんの詩集の本の出版おめでとうございます。これも立派なものです。収録された詩を読んでいると、なな子さんの人柄が滲んでおります。情緒豊かで夢とロマンに満ちた、そして素直な温い心が伝ってくるようです。なな子さんに詩の心がご幼少の砌よりおありであったことは、私は気がつきませんでした。書道の事、詩の心や人柄をすべて見抜いた大琳先生に改めて敬意を表します。私はお二人の結婚の仲人をした事を今でも誇りに思っております。

大琳さんの琳という字は美しい玉という意味で玉は自ら光る資質をもっているが、之を磨けば更に光を増す。いい号をつけました。大琳・中琳・小琳どれでもよいが矢張り大琳の方が規模が大きい、大分県の大琳・九州の大琳・そして日本の大琳へと躍進を期待しております。

最後にもう一つ、大琳さんが鶴見丘高校に在学中の事、学生の生徒会副会長に選ばれました。そして生徒会のために、学校のために、よく働きました。統率力があり、生徒の信頼も篤かったのであります。これはすべて本人の持っている「奉仕の心」から出発したのだと思います。

書道を愛し、書の発展のために全力を盡す営みの底に「書道のために奉仕する」という一つの理念をつけ加えれば今後の運動に更に完璧の光を増すと考えます。

雑然といろいろ申しましたが、本日はお目出とうございます。

以上で挨拶を終ります

平成四年十一月十三日

於大分市トキハ会館